

中項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県立多治見病院

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証											
		<ul style="list-style-type: none"> 特に進捗した取組 その他の主な取組 今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)										
01	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度医療機器について、新たに策定する医療機器整備7ヵ年計画に基づいて更新・整備を進める。 老朽化が進んでいる放射線治療装置（ライナック）などの高度医療機器の更新・整備を行う。 新中央診療棟の整備に向けて、具体的な診療機能や施設規模等についての計画を策定する。 <p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護職員修学資金貸付などの支援制度を継続実施する。 ガイダンスへの参加、学校訪問等を積極的に行うとともに、インターネットや新聞などの広報媒体を活用した看護師、コメディカルの募集活動を実施する。 定年を向かえた医師、看護師等のうち、病院経営に寄与すると認められる職員の再雇用を実施する。 大学医局との連携などによる医師確保に努める。 医師や看護師の業務負担軽減を推進するため、医師事務作業補助者や看護事務補助者などの確保に努める。 医師事務作業補助者について、診療科ごとのフ 	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度・先進医療、急性期医療、政策医療等が提供できるよう病床機能や規模、将来予測等をふまえた新中央診療棟整備の基本計画を策定した。 老朽化により更新整備する放射線治療装置（トゥルービーム）について機器の購入契約を締結するとともに高精度放射線治療センターの増改築工事を行った（工期：平成28年5月～平成29年5月）。 新中央診療棟整備に関連し今後、高額な医療機器更新が見込まれるため、購入費用が抑制される中、その他の高度医療機器についても緊急度や優先順位を勘案し、整備を行った。閉鎖していた東7階病棟を改修し血液浄化センターを拡充し、透析システム等必要な機器を整備した。 <p>【更新・整備した主な機器】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>整備目的・用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線治療装置（トゥルービーム）</td> <td>がんの放射線治療に使用（正常な組織を守り、腫瘍のみ集中的に治療）</td> </tr> <tr> <td>胆道鏡結石治療システム</td> <td>膵管や胆管へ挿入し、精査及び結石破碎治療を行う際に使用</td> </tr> <tr> <td>透析システム</td> <td>血液透析施行時に使用（血液浄化センター整備に伴う整備）</td> </tr> <tr> <td>超音波画像診断装置</td> <td>超音波画像診断（超音波を利用し生体内の状態を検査）を行う際に使用</td> </tr> </tbody> </table> <p>※放射線治療装置は、購入契約のみ。（平成29年6月納期）</p>	機器名	整備目的・用途	放射線治療装置（トゥルービーム）	がんの放射線治療に使用（正常な組織を守り、腫瘍のみ集中的に治療）	胆道鏡結石治療システム	膵管や胆管へ挿入し、精査及び結石破碎治療を行う際に使用	透析システム	血液透析施行時に使用（血液浄化センター整備に伴う整備）	超音波画像診断装置	超音波画像診断（超音波を利用し生体内の状態を検査）を行う際に使用	IV		<p>麻酔科医不足を補い、診療体制を維持していることは評価できる。安定した医師、看護師の必要数確保に期待する。</p> <p>また、高度医療機器については、新中央診療棟整備を勘案した計画的な更新・整備が同え、評価できる。</p>
機器名	整備目的・用途														
放射線治療装置（トゥルービーム）	がんの放射線治療に使用（正常な組織を守り、腫瘍のみ集中的に治療）														
胆道鏡結石治療システム	膵管や胆管へ挿入し、精査及び結石破碎治療を行う際に使用														
透析システム	血液透析施行時に使用（血液浄化センター整備に伴う整備）														
超音波画像診断装置	超音波画像診断（超音波を利用し生体内の状態を検査）を行う際に使用														

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																							
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																						
	<p>オーラアップ体制の確立や実務に即した研修体制の充実により資質向上を図り、さらなる医師の負担軽減を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と家庭を両立させるため、育児部分休業の活用を推進や、院内保育施設での夜間保育・休日保育・病児保育を引き続き実施するとともに、職員のニーズに柔軟に対応できる体制づくりに努める。 	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔科医の退職により大幅な減員となったが、大学医局との連携や代務医の招聘により必要な医師の確保に努めた。看護師については、ガイダンスでの募集活動、学校訪問、看護職員修学資金等の支援制度により、その他のコメディカルについては、地域情報誌、インターネットを活用した募集により、医療従事者の充実を行った。医師、看護師の必要数確保が課題である。(●) 																									
02	<p>6 患者や周辺住民からの病院運営に関する意見の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等と病院とで構成する「多治見病院運営協議会」を開催し、地域住民のニーズを把握する。 	<p>6 患者や周辺住民からの病院運営に関する意見の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等と病院とで構成する「多治見病院運営協議会」を開催し、新中央診療棟の整備、医療をめぐる状況と病院の方向性、血液浄化センター等の整備、がん放射線治療装置拡充整備について意見交換を行った。 ・患者サービスに努めた結果、日本病院会「Q Iプロジェクト」での患者満足度調査では、全国Q Iプロジェクト参加病院の中では高い満足度を得ることができた。 <p>【満足度調査の比較】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">満足度</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">入院</td> <td>当院</td> <td>95.6</td> <td>98.1</td> </tr> <tr> <td>QIプロジェクト参加病院 (平均値)</td> <td>89.3</td> <td>89.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">外来</td> <td>当院</td> <td>87.2</td> <td>87.7</td> </tr> <tr> <td>QIプロジェクト参加病院 (平均値)</td> <td>81.7</td> <td>83.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ QI プロジェクトデータを全て引用</p>			満足度				H27	H28	入院	当院	95.6	98.1	QIプロジェクト参加病院 (平均値)	89.3	89.1	外来	当院	87.2	87.7	QIプロジェクト参加病院 (平均値)	81.7	83.0	IV		患者満足度調査の評価が高く、職員の努力が伺え、評価できる。
		満足度																									
		H27	H28																								
入院	当院	95.6	98.1																								
	QIプロジェクト参加病院 (平均値)	89.3	89.1																								
外来	当院	87.2	87.7																								
	QIプロジェクト参加病院 (平均値)	81.7	83.0																								

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																						
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																					
04	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想をふまえた病病連携の推進を図るため、定期的に東濃・可児地域病病連携推進会議を開催する。 ・当院が急性期病院であることを地域の医療機関や住民に周知することにより、地域医療支援病院の指定に必要な紹介率・逆紹介率の確保を目指す。 ・かかりつけ医紹介センター及び多治見シャトル（病診連携システム）を効果的に活用し、開業医との連携を深める。 ・外来待ち合いスペースに設置してある「医療連携登録医情報コーナー」を活用し、登録医の情報を提供するとともに、登録医等への訪問活動を継続的に実施する。 	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多治見シャトル（かかりつけ医へ患者の診療予定日をお知らせする仕組み）を活用し、開業医との連携強化を進めることができた。また、地域医療機関向けの講演会や、市民向けの健康講座を通じて、近隣病院との役割分担の明確化と連携強化を図り、患者紹介率、逆紹介率ともに高い水準を維持することができた。地域医療支援病院としての要件を満たした。 <p>【多治見シャトル利用】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>702</td> <td>1,082</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紹介患者のうち医療連携予約の割合】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>58.8</td> <td>61.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紹介率・逆紹介率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 (単位：%)</td> <td>65.7</td> <td>75.7</td> </tr> <tr> <td>紹介実件数 (単位：件)</td> <td>22,506</td> <td>22,553</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 (単位：%)</td> <td>77.3</td> <td>86.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介実件数 (単位：件)</td> <td>17,796</td> <td>17,325</td> </tr> </tbody> </table> <p>【高度医療機器利用状況】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C T</td> <td>762</td> <td>887</td> </tr> <tr> <td>M R I</td> <td>628</td> <td>580</td> </tr> <tr> <td>R I</td> <td>137</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>P E T</td> <td>60</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>骨密度</td> <td>46</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,633</td> <td>1,715</td> </tr> </tbody> </table> <p>【開放型病床利用】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医科</td> <td>13</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>26</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	H27	H28	702	1,082	H27	H28	58.8	61.2	区分\年度	H27	H28	紹介率 (単位：%)	65.7	75.7	紹介実件数 (単位：件)	22,506	22,553	逆紹介率 (単位：%)	77.3	86.2	逆紹介実件数 (単位：件)	17,796	17,325	機器名\年度	H27	H28	C T	762	887	M R I	628	580	R I	137	128	P E T	60	57	骨密度	46	63	合 計	1,633	1,715	区分\年度	H27	H28	医科	13	21	歯科	26	22	IV		多治見シャトルの運用例の増加、紹介率・逆紹介率の向上は評価できる。
H27	H28																																																									
702	1,082																																																									
H27	H28																																																									
58.8	61.2																																																									
区分\年度	H27	H28																																																								
紹介率 (単位：%)	65.7	75.7																																																								
紹介実件数 (単位：件)	22,506	22,553																																																								
逆紹介率 (単位：%)	77.3	86.2																																																								
逆紹介実件数 (単位：件)	17,796	17,325																																																								
機器名\年度	H27	H28																																																								
C T	762	887																																																								
M R I	628	580																																																								
R I	137	128																																																								
P E T	60	57																																																								
骨密度	46	63																																																								
合 計	1,633	1,715																																																								
区分\年度	H27	H28																																																								
医科	13	21																																																								
歯科	26	22																																																								

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																								
05	<p>5 緩和ケア <緩和ケアセンター> ① 緩和ケアセンターの充実 ・地域がん診療拠点病院として、平成 27 年度に新設した緩和ケアセンターの活用の充実を図る。 ・院内の緩和ケアマニュアルを見直し、適宜改訂する。 ② 教育・啓発活動 ・院内・院外・一般向けの緩和ケアに関する教育、啓発活動を継続する。</p> <p><緩和ケア病棟> ③ 在宅医療機関との連携を強化し、緩和ケア病棟への入退院の円滑化を図る。</p> <p><緩和ケアチーム> ④ 入退院時において緩和ケアを必要とする患者をピックアップするためのスクリーニングを徹底し、早期の退院調整につなげる。</p>	<p>5 緩和ケア ・講演会や勉強会の開催等地域における緩和ケアの取り組み、関係機関との連携、指導体制の強化等が高く評価され、公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価 (3rdG:ver1.1 副機能 緩和ケア病院) を認証取得することができた。 ・平成 27 年度に開設した緩和ケアセンターを活用し、退院支援カンファレンスや緩和ケアに関わる他医療機関及び多職種連携のカンファレンスを開催した。入院から在宅での緩和ケアへ円滑に移行できるよう関係機関で患者情報を共有し、連携の強化を行った。</p> <p>【緩和ケア勉強会等開催状況】 単位：回</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緩和ケア勉強会</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア研修会</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア講演会</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア市民公開講座</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【緩和ケアの患者動向】 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>3,227</td> <td>3,237</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>125</td> <td>129</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H27	H28	緩和ケア勉強会	8	6	緩和ケア研修会	2	1	緩和ケア講演会	2	2	緩和ケア市民公開講座	1	1	区分\年度	H27	H28	入院患者数	3,227	3,237	外来患者数	125	129	IV		特徴ある緩和ケアセンターの運用は評価できる。
区分\年度	H27	H28																											
緩和ケア勉強会	8	6																											
緩和ケア研修会	2	1																											
緩和ケア講演会	2	2																											
緩和ケア市民公開講座	1	1																											
区分\年度	H27	H28																											
入院患者数	3,227	3,237																											
外来患者数	125	129																											

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)								
10	<p>1 地域医療水準の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度医療機器や開放型病床の共同利用について継続的にPRし、利用を促進する。 ・地域医療連携推進協議会の開催や、医療連携登録医等への継続的な訪問活動を通じて、医療連携の強化、各医療機関の役割分担の明確化を図り、地域医療支援病院の指定に必要な紹介率・逆紹介率の確保を目指す。 ・病院主催の講演会、勉強会（医療連携、医療安全、感染対策、緩和ケアなど）を通じて、地域の医療水準の向上と医療機関相互の連携強化に努める。 ・在宅緩和ケアについて、地域のケアマネージャーや診療所等と連携し、事例検討会の開催や入退院の調整を行う。 ・精神科を設置している地域医療機関や関係行政機関による東濃精神科医療連絡会を定期的に開催し、症例検討や精神医療に関する情報交換を行う。 ・東濃地域周産期母子医療センターとして、東濃地域の産科医との「お産ネットワーク」を結び、密接な連携のもと、小児科と協働してハイリスクの周産期医療を推進する。 <p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険上矢作病院に対し、定期的な医師の派遣支援を継続する。 ・へき地医療に関しては、岐阜県へき地医療支援機構の求めに応じ、随時医師の派遣を行う。 ・東濃地域等の他院からの依頼に応じ、可能な限り随時医師の派遣を行う。 	<p>1 地域医療水準の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年4回開催した地域医療連携推進協議会を通じ、医師会長をはじめとする関係者に医療連携の推進、高度医療機器、開放型病床の利用促進を図るとともに、医療連携講演会、症例検討会等を開催して地域医療の質の向上に努めた。 ・東濃、可児地域の8病院で組織された東濃・可児地域病棟連携推進会議（年2回開催）を通じ、病院間で協力、提携した診療を模索し、それぞれの医療資源を有効活用したより良い診療環境の提供について検討を行った。また県主導で地域医療構想が進められる中、各病院の機能について、今後の方向性等について意見交換を行った。 <p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険上矢作病院、中津川市民病院に加え、新たに土岐市立総合病院へ医師を派遣するなど、医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援を継続した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>派遣医療機関</th> <th>派遣状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国民健康保険上矢作病院</td> <td>週1日（当直業務） 1人（6人で交代） 延べ51人 研修医を5ヶ月（延べ5人）</td> </tr> <tr> <td>中津川市民病院</td> <td>脳神経外科 4月～翌3月 毎週木曜日 1人（2人で隔週交代） 延べ46人</td> </tr> <tr> <td>土岐市立総合病院</td> <td>循環器内科 5/12～翌3月 毎週木曜日 1人（6人で隔週交代） 延べ42人</td> </tr> </tbody> </table>	派遣医療機関	派遣状況	国民健康保険上矢作病院	週1日（当直業務） 1人（6人で交代） 延べ51人 研修医を5ヶ月（延べ5人）	中津川市民病院	脳神経外科 4月～翌3月 毎週木曜日 1人（2人で隔週交代） 延べ46人	土岐市立総合病院	循環器内科 5/12～翌3月 毎週木曜日 1人（6人で隔週交代） 延べ42人	III	<p>評価の検討</p> <p>III→IV</p> <p>新たに派遣先を増やすなど、東濃医療圏の基幹病院として、へき地医療にも貢献しており評価できる。</p> <p>IIIのまま</p> <p>概ね年度計画どおり実施している。</p>	<p>「IV」</p> <p>新たに派遣先を増やすなど、東濃医療圏の基幹病院として、へき地医療にも貢献しており評価できる。</p>
派遣医療機関	派遣状況												
国民健康保険上矢作病院	週1日（当直業務） 1人（6人で交代） 延べ51人 研修医を5ヶ月（延べ5人）												
中津川市民病院	脳神経外科 4月～翌3月 毎週木曜日 1人（2人で隔週交代） 延べ46人												
土岐市立総合病院	循環器内科 5/12～翌3月 毎週木曜日 1人（6人で隔週交代） 延べ42人												

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																	
12	<p>1 公開講座、医療相談会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民向けの公開講座を開催し、医療に対する知識や関心を高める。 ・医師、看護師等が地域に出向き、地域住民を対象とした講座を継続的に実施する。 ・医療情報の提供となる催しを積極的に行う。 ・岐阜県難病団体連絡協議会の主催する難病医療福祉相談会などに、相談員として参加する。 <p>2 保健医療、健康管理等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院広報誌「けんびょういん」を発行し、最新の医療情報を発信する。 ・地域情報誌等への医療情報の提供に積極的に協力する。 ・ホームページに公開する情報を常に最新のものに更新する。 	<p>1 公開講座、医療相談会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民公開講座・緩和ケア市民公開講座や、医師、看護師等による出前講座（健康づくり講座）等を行った。健康づくり講座の開催地を拡大し、従来の多治見市内のほか可児市、土岐市、瑞浪市、恵那市で企画開催した。 <p>【市民を対象とした公開講座、医療相談等開催実績】 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>公開講座等名</th> <th>参加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28. 11. 19</td> <td>緩和ケア市民公開講座 ここまでできる！在宅医療 ～おとなりの地域の経験者たち にも聞いてみよう～</td> <td>171</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H28. 11. 27</td> <td>市民公開講座 健康寿命を延ばそう！ ～生活習慣の改善と運動による 健康づくり～</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>ミニ講座 薬とサプリメントについて</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>H28. 11. 27</td> <td>秋まつり ブースにて内視鏡手術体験などを 実施</td> <td>524</td> </tr> <tr> <td>年15回</td> <td>健康づくり講座 おくすりの話 他</td> <td>437</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 保健医療、健康管理等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の病院広報誌の発行、地域情報誌等やホームページを活用した広報活動等により、医療に関する情報を積極的に発信した。 ・東濃・可児地域病両連携推進会議を構成する8病院合同で中日新聞の特集記事を企画し、地域医療を守る病院長の決意メッセージを発信した。 	開催日	公開講座等名	参加	H28. 11. 19	緩和ケア市民公開講座 ここまでできる！在宅医療 ～おとなりの地域の経験者たち にも聞いてみよう～	171	H28. 11. 27	市民公開講座 健康寿命を延ばそう！ ～生活習慣の改善と運動による 健康づくり～	70	ミニ講座 薬とサプリメントについて	40	H28. 11. 27	秋まつり ブースにて内視鏡手術体験などを 実施	524	年15回	健康づくり講座 おくすりの話 他	437	III	<p>評価の検討</p> <p>III→IV</p> <p>市民向け公開講座のほか、職員による出前講座（健康づくり講座）など特徴が出ており評価できる。また、開催地域の拡大についても評価できる。</p> <p>IIIのまま</p> <p>概ね年度計画どおり実施している。</p>	<p>IV</p> <p>市民向け公開講座のほか、職員による出前講座（健康づくり講座）など特徴が出ており評価できる。また、開催地域の拡大についても評価できる。</p>
開催日	公開講座等名	参加																				
H28. 11. 19	緩和ケア市民公開講座 ここまでできる！在宅医療 ～おとなりの地域の経験者たち にも聞いてみよう～	171																				
H28. 11. 27	市民公開講座 健康寿命を延ばそう！ ～生活習慣の改善と運動による 健康づくり～	70																				
	ミニ講座 薬とサプリメントについて	40																				
H28. 11. 27	秋まつり ブースにて内視鏡手術体験などを 実施	524																				
年15回	健康づくり講座 おくすりの話 他	437																				

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証										
		<ul style="list-style-type: none"> 特に進捗した取組 その他の主な取組 今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)									
14	2 大規模災害発生時のDMATの派遣 ・厚生労働省医政局及び岐阜県の要請によりDMATを常時派遣できる体制を維持する。 ・大規模災害時において精神医療活動を行う災害派遣精神医療チーム (DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team) に、精神科医の要請があれば常に派遣できる体制をとる。	2 大規模災害発生時のDMATの派遣 ・熊本地震に対して医療救護班として5名 (内DMAT隊員4名) を、「こころのケア」に対する支援のため災害派遣精神医療チーム4名 (DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team) を派遣し、支援活動に従事させた。 【熊本地震に対する活動実績】 単位: 人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施期間</th> <th>活動内容</th> <th>派遣人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28. 4. 25 ～ H28. 4. 30</td> <td>医療救護班</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H28. 5. 12 ～ H28. 5. 17</td> <td>災害派遣精神医療チーム</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	実施期間	活動内容	派遣人数	H28. 4. 25 ～ H28. 4. 30	医療救護班	5	H28. 5. 12 ～ H28. 5. 17	災害派遣精神医療チーム	4	IV		DPATは貴重であり、熊本地震時の派遣は評価できる。
実施期間	活動内容	派遣人数												
H28. 4. 25 ～ H28. 4. 30	医療救護班	5												
H28. 5. 12 ～ H28. 5. 17	災害派遣精神医療チーム	4												
19	1 人事評価システムの構築 ・平成27年度までに試行した人事評価システムを本格実施する。	1 人事評価システムの構築 ・平成27年度に試行した人事評価システムを本格実施するとともに、平成29年度に新設される目標管理、業務貢献手当と関連付け、評価制度の一部見直しを行った。	III	評価の検討 III→IV 人事評価システムの本格実施だけでなく、次年度新設制度との関連に向けた見直しを行っており評価できる。 IIIのまま 概ね年度計画どおり実施している。	「IV」 人事評価システムの本格実施だけでなく、次年度新設制度との関連に向けた見直しを行っており評価できる。									

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																	
26	<p>「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を効果的に進めるなどして、経常収支比率100%以上及び職員給与費対医業収益比率を50%以下とすることを旨とする。</p>	<p>※経常収支比率・職員給与費対医業収益比率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医業収益の増と経費節減などの努力によって、経常収支比率100.7%となった。職員給与費対医業収益比率は目標の50%以下を上回ったため、業務の効率化や医業収益の更なる増収を目指していく。 <p>【経常収支比率・職員給与費対医業収益比率】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支</td> <td>100.5</td> <td>100.7</td> </tr> <tr> <td>職員給与費</td> <td>51.5</td> <td>51.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H27	H28	経常収支	100.5	100.7	職員給与費	51.5	51.7	IV		7期連続の経常黒字は大いに評価できる。																								
区分\年度	H27	H28																																				
経常収支	100.5	100.7																																				
職員給与費	51.5	51.7																																				
27	<p>1 職員の就労環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて職員募集や再雇用制度などによる人数の確保や、育児部分休業の活用など仕事と家庭を両立させるための柔軟な勤務時間体制を推進する。 ・業務負担の軽減を図るため、有給休暇の取得や時間外勤務の縮減のための対策を検討する。 ・職員の福利厚生について、他院の状況を把握し充実させるためのあり方を検討する。 	<p>1 職員の就労環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有給休暇の取得について、各部門長により計画的な取得を推進するとともに、リフレッシュ休暇（特別休暇）を新設し休暇の取得促進を図った。 <p>【有給休暇取得率】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年次休暇</td> <td>27.3</td> <td>27.5</td> </tr> <tr> <td>夏期休暇</td> <td>92.5</td> <td>87.6</td> </tr> <tr> <td>誕生日休暇</td> <td>74.7</td> <td>79.1</td> </tr> <tr> <td>リフレッシュ休暇</td> <td>—</td> <td>78.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【育児部分休業及び育児短時間勤務利用者数】 単位：人（各年度末時点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>27</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医師・看護師事務作業補助者数】 単位：人（各年度末時点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師事務作業補助者 (医療クラーク)</td> <td>43</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>病棟事務補助者 (看護クラーク)</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>55</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H27	H28	年次休暇	27.3	27.5	夏期休暇	92.5	87.6	誕生日休暇	74.7	79.1	リフレッシュ休暇	—	78.2	区分\年度	H27	H28	利用者数	27	29	区分\年度	H27	H28	医師事務作業補助者 (医療クラーク)	43	37	病棟事務補助者 (看護クラーク)	12	11	合 計	55	48	III		リフレッシュ休暇はアイデアとしてユニークであり、今後も続けられたい。
区分\年度	H27	H28																																				
年次休暇	27.3	27.5																																				
夏期休暇	92.5	87.6																																				
誕生日休暇	74.7	79.1																																				
リフレッシュ休暇	—	78.2																																				
区分\年度	H27	H28																																				
利用者数	27	29																																				
区分\年度	H27	H28																																				
医師事務作業補助者 (医療クラーク)	43	37																																				
病棟事務補助者 (看護クラーク)	12	11																																				
合 計	55	48																																				

項目 No.	H28 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)
29	2 質の高い医療をするための新中央診療棟の整備 ・新中央診療棟整備について、多治見市の地区計画決定をもとに、具体的な計画（基本計画、立体駐車場整備計画等）策定を進める。 ・その他施設整備については、施設の老朽化対応（空調機改修など）や、患者の要望を反映させた改修等を進める。 ・情報システム整備について、10 ヶ年計画作成に向けた検討を行う。	2 質の高い医療をするための新中央診療棟の整備 ・多治見市の地区計画が平成 28 年 9 月 30 日に決定され、新中央診療棟建設に必要な容積率が確保できた。新中央診療棟整備基本計画を、院内各部門ワーキング、整備推進委員会において具体的な検討を重ね、平成 29 年 2 月 28 日に策定した。 ・情報システムの中心である電子カルテシステムについて、他の県立病院に先行して当院が単独で更新整備することを決定した。平成 29 年度に具体的な更新計画を策定する。	IV		診療充実に向けた新中央診療棟の整備について、大いに期待する。